

⑫ キャベツを植えよう



結球開始まで追肥を

キャベツは、ビタミンC、A、Kやカルシウムなどを含み、栄養的に優れた野菜です。生食や煮たり、炒めたりと色々な料理に使える、家庭での常備野菜の一つです。

秋から冬の栽培が中心ですが、春まきで初夏に収穫する栽培も可能です。春まきの注意点は、できるだけとう立ちしにくい品種（晩抽性）を選ぶことが大事です。最近では小型の品種もでているので、プランターでも栽培できます。

①**プランター** 一般的なプランターより少し大きめのプランターが良いです。深さが30センチぐらいあるものが良いでしょう。

②**培養土** 排水が良く、有機物を多く含む土が良いです。自分で配合する場合の例として、赤玉土7割、腐葉土2割、パーミキュライト1割を混合して使います。市販の野菜用培養土を利用するのが手軽です。

③**肥料** 培養土10リットルに対し、堆肥200グラム、化成肥料100グラム、あと酸性土壌を嫌いますので苦土石灰100グラムを土とよく混合して使います。

④**種まき・苗の選び方** 種をまいて育てるときは、9センチ程度のポリ鉢に1カ所に付き3、4個ほどくぼみを作り、そこに種を播きます。軽く覆土し、たっぷりと水を与えて発芽するまでは表面が乾かない程度に水をやりまします。芽がでたら3本に間引き、本葉が2枚頃2本に、本葉が3、4枚頃1本にします。購入苗を植える場合は本葉が5、6枚程度の徒長していないしっかりしている苗を選びます。

⑤**植え付け** 苗を30～40センチ間隔で、子葉が隠れてしまわないよう探植えに注意し、根鉢の表面と用土が同じ高さになるように植えましょう。

⑥**追肥** 苗の植え付けから3週間たった頃に1回目の追肥をします。2回目の追肥は6週間たった頃にしましょう。追肥は結球が始まる前までは与えて肥料切れにならないようにしましょう。遅れると球は大きくなりません。

⑦**病害虫防除、保温** 害虫が多く、シンクイムシ、ヨトウムシ、アオムシなどがつきやすいので、見つけ次第捕殺してください。1メートル以下の目合いの防虫ネットなどで、プランター全体を覆うようにするとよいでしょう。

⑧**収穫** 球を上から触ってみて、よくしまっていたら収穫です。遅れると裂球するので気をつけましょう。



(鹿児島市都市農業センター)

平成30年3月8日(木) / 南日本新聞